

【人文社会系（社会科学）】

少子高齢社会の階層格差の解明と公共性の構築に関する総合的実証研究

しらはせ さわこ
白波瀬 佐和子

(東京大学・大学院人文社会系研究科・准教授)

【研究の概要等】

本研究の目的は、大きく二つある。第一点は、高齢者にウェイトを置いた全国大規模調査を実施、分析し、高齢層の階層格差の所在とその生成メカニズムを明らかにする。第二点は、少子高齢社会の持続可能で公平な社会保障制度の基本的理念を構築することにある。急速な人口高齢化に伴う世代間のアンバランスは社会保障制度改革を緊急なものとする一方で、65歳以上高齢層内の階層格差についてはその実態把握が不十分なうえに、制度的にも高齢層内の階層性が十分反映されていない。

本研究の実施期間は5年である。本研究の大きな柱のひとつである、大規模調査は中間年の平成22年実施を予定する。そこでは、高齢者や彼/彼女らを取り巻く、同居・別居親族、近隣・地域の状況を含む多層的な調査を計画している。量的調査だけでは把握しきれない、貧困層、一人暮らしの実情を明らかにするために、質的調査も大規模調査前後に予定している。本研究の意義は、若者対高齢者、現役世代対引退世代、といった異なる世代を対立軸に置くことなく、公共性をバックボーンとした持続可能な少子高齢社会に向けた新たな階層研究を提示することにある。

【当該研究から期待される成果】

これまでの階層研究は、労働市場における地位を中心に議論されてきた。しかし、労働市場から引退した高齢者のみの世帯が増加し、非正規雇用で代表されるように、労働市場との多様な関係をもつものが増えた。そこで本研究から期待される成果は、これまで階層格差が十分みえてこなかった高齢層に着目することで、新たな階層理論を発信し、現実の階層格差を収束させるよりどころとしての公共性理念を提示することにある。大規模な全国調査データを用いた実証研究と公共性理念に関する理論構築をリンクさせることが、本研究の目指す最も重要なポイントである。

【当該研究課題と関連の深い論文・著書】

- ・ 『少子高齢社会のみえない格差 ジェンダー・世代・階層のゆくえ』（白波瀬佐和子著 2005年 東京大学出版会）
- ・ 『変化する社会の不平等 少子高齢化にひそむ格差』（白波瀬佐和子編著 2006年 東京大学出版会）

【研究期間】 平成20年度－24年度

【研究期間の配分（予定）額】

129,400,000 円（直接経費）

【ホームページアドレス】 開設中